留萌市財政再建計画の實施狀況

概況

留萌市の財政再建は、実質的には昭和二十九年度から始められたものであります。

戦後留萌市か赤字の発生をみたのは昭和二十三年度が初めてで、以來毎年度赤字の發生があり、昭和二十九年度においては、その額が一億二千万円の高額に達したのであります。

昭和二十九年九月一日、昭和二十三年度以降の財政実態の調査を実施し、それに基き同年十一月一日留萌市財政再建五ケ年計画を樹立したのであります。

この自主的財政再建計画に基き、昭和三十年度において、希望退職、欠員の不補充、全職員の俸給の切下げ、昇給、時間外勤務手当の保留、宿日直手当の減額等により一千二万円の人件費の節減を行い、又物件費、その他の諸経費の削減等、併せて二千九百万円の経費の節減を行い、一方歳入の増収の措置を講じたのであります。

この努力は効を奏し、昭和二十三年以来初めての単年度六百万円の黒字決算を昭和三十年度において行うことが出来たのであります。

更に折よく昭和三十年十二月二十九日地方財政再建促進等別措置法が制定公布されたのであります。

留萌市は、いち早く再建法に基く財政再建計画を制定、昭和三十年度において一億一千万円の財政再建債の許可を受けたのであります。

これ等により昭和三十年度は八年振りに、赤字なしの決算を行うことが出来たのであります。

しかし昭和三十一年度において、全道的な冷害凶作と、漁に見舞れ、市税收入の著しい不振を招いたのみでなく、区漁対策費、冷害対策費及び、失業対策費の費用が予想外に重み、財政再建第二年度目において一千四百万円の赤字の發生をを余儀なくされたのであります。

昭和三十一年度の赤字については、使用料、手数料、雑収入等が計画以上の増收となり、それに伴い補なわれております。

歳入経額は計画額より七千円増収されて決算が行なわれました。

歳出においては、前年度繰上充用金一四七三千円（前年度の赤字補塡金）を含め計画額に対して七五千円を上廻って執行され、前年度の赤字を全額解消し、なお歳入歳出差引一千円の黒字をもって決算を終了したのであります。出納閉鎖が十月三日に行なわれており、このことは、今後の財政運営に重大な影響を及ぼすものであり、三十三年度以降の財政運営については一段とその改善を計り遺かに常態に復せしめる所存であります。

なお三十一年度において実施した事業の主なものは左のとおりであります。

○公営住宅新設工事費
二戸　六八一千円
○沿岸魚田漁港整備事業費
二、三七二千円
○消防施設整備事業費
二、九五九千円
○道路等工事費
四、〇五〇千円
○公園造成工事費
一、九四一千円
○トラック購入費
一台　一、六一〇千円
○国有林野買収費
一、七八七千円
○開基八〇周年記念行事費
四、一四六千円
○港湾用地買収費
二、八〇六千円
○ブルートーザー購入費
一台　二、二〇〇千円
○土木災害復旧事業費
五、五〇〇千円
○失業対策事業費
八、八〇六千円
○野球場整地工事費
八、八〇六千円
○留中校舎増築工事費
二、五一五千円
○三角点鶴光道路新設
二、七九〇千円
○道路等補修工事費
四、七九六千円
○市街道路等作業
七、〇〇八千円
○採石製造工事費
二、八八三千円
○職業補導所設置事業費
二、七一五千円
○漁港漁港改修工事費
二、二四六千円
○災害公営住宅新築工事費
四〇戸一七、三五〇千円
○災害復旧工事費
二七、六四三千円
○失業対策事業費
五、二三八千円
○採石事業費
四、二三八千円
○留中校舎整地工事費
一、八四八千円
○道路補修工事費
一〇、七七九千円
○排水溝補修工事費
二、三三六千円
○見晴公園整備工事費
二二、七七千円
○三角点鶴光道路工事費
二、四四二千円
○宅地造成工事費
二、九四八千円

昭和三十二年度の實施狀況

昭和三十一年度の歳入については、使用料、手数料、雑収入等が計画以上の増收となり、それに伴い補なわれております。

同表により申げますと、市税收入は、計画額に対して一五〇七千円減収で、その徴収率は、現過年度分八〇・一％、滞納三〇・〇％、合計五八・七％で決算が行なわれております。

これは当初計画の六三％より四％減収となっており税収の確保については一層の努力を要するところであります。

この税収の減収分については、使用料、手数料、雑収入等の計画以上の増收となり、それに伴い補なわれております。

歳入経額は計画額より七千円増収されて決算が行なわれました。

歳出においては、前年度繰上充用金一四七三千円（前年度の赤字補塡金）を含め計画額に対して七五千円を上廻って執行され、前年度の赤字を全額解消し、なお歳入歳出差引一千円の黒字をもって決算を終了したのであります。出納閉鎖が十月三日に行なわれており、このことは、今後の財政運営に重大な影響を及ぼすものであり、三十三年度以降の財政運営については一段とその改善を計り遺かに常態に復せしめる所存であります。

なお三十一年度において実施した事業の主なものは左のとおりであります。

○公営住宅新設工事費
二戸　六八一千円
○沿岸魚田漁港整備事業費
二、三七二千円
○消防施設整備事業費
二、九五九千円
○道路等工事費
四、〇五〇千円
○公園造成工事費
一、九四一千円
○トラック購入費
一台　一、六一〇千円
○国有林野買収費
一、七八七千円
○開基八〇周年記念行事費
四、一四六千円
○港湾用地買収費
二、八〇六千円
○ブルートーザー購入費
一台　二、二〇〇千円
○土木災害復旧事業費
五、五〇〇千円
○失業対策事業費
八、八〇六千円
○野球場整地工事費
八、八〇六千円
○留中校舎増築工事費
二、五一五千円
○三角点鶴光道路新設
二、七九〇千円
○道路等補修工事費
四、七九六千円
○市街道路等作業
七、〇〇八千円
○採石製造工事費
二、八八三千円
○職業補導所設置事業費
二、七一五千円
○漁港漁港改修工事費
二、二四六千円
○災害公営住宅新築工事費
四〇戸一七、三五〇千円
○災害復旧工事費
二七、六四三千円
○失業対策事業費
五、二三八千円
○採石事業費
四、二三八千円
○留中校舎整地工事費
一、八四八千円
○道路補修工事費
一〇、七七九千円
○排水溝補修工事費
二、三三六千円
○見晴公園整備工事費
二二、七七千円
○三角点鶴光道路工事費
二、四四二千円
○宅地造成工事費
二、九四八千円
○職業補導所設置事業費
二、七一五千円
○漁港漁港改修工事費
二、二四六千円
○災害公営住宅新築工事費
四〇戸一七、三五〇千円
○災害復旧工事費
二七、六四三千円
○失業対策事業費
五、二三八千円
○採石事業費
四、二三八千円
○留中校舎整地工事費
一、八四八千円
○道路補修工事費
一〇、七七九千円
○排水溝補修工事費
二、三三六千円
○見晴公園整備工事費
二二、七七千円
○三角点鶴光道路工事費
二、四四二千円
○宅地造成工事費
二、九四八千円

別表1

昭和32年度財政再建計画の実施狀況

（単位　千円）

オ入	計画額 オ入額 (A)	計画額 うち一般財源	決算額 オ入額 (B)	決算額 うち一般財源	比較 (B)−(A)
市税	122.475	119.286	121.968	118.053	△ 1.507
地方交付税	67.150	67.150	67.150	67.150	0
地方譲與税	74	74	74	74	0
財産收入	8.390	5.820	8.428	5.858	38
使用料手数料	16.731	0	17.062	0	331
国庫支出金	50.304	301	50.304	301	0
道支出金	3.549	0	3.549	0	0
寄附金	168	0	168	0	0
繰入金	11.100	3.100	11.100	3.100	0
雑收入	13.431	3.691	14.645	4.797	1.214
地方債	14.550	0	14.550	0	0
オ入合計	308.922	199.422	308.908	199.333	76

オ出	計画額 オ出額 (C)	計画額 うち一般財源充当額	決算額 オ出額 (D)	決算額 うち一般財源充当額	比較 (D)−(C)
消費的経費	164.260	109.393	164.215	108.894	△ 45
(1)人件費	74.246	73.685	74.886	73.874	△ 360
(2)物件費	42.255	19.799	42.009	18.499	△ 249
(3)その他経費	46.756	15.909	47.320	16.521	564
投資的経費	75.518	32.892	75.522	33.184	4
(1)普通建設事業費	43.187	22.699	43.191	22.991	4
(2)災害復旧事業費	5.500	0	5.500	0	0
(3)失業対策事業費	26.831	10.193	26.831	10.193	0
公債費	41.758	37.923	41.758	37.751	△ 172
(1)財政再建債元利償還金	21.521	17.514	21.521	17.514	0
(2)その他	20.409	20.409	20.237	20.237	△ 172
繰出金	12.441	4.441	12.729	4.728	288
前年度繰上充用金	14.773	14.773	14.773	14.773	0
オ出合計	308.922	199.422	308.997	199.322	75
オ入オ出差引額	0	0	1	1	1
支拂繰延額	0	0	0	0	0
事業繰延額	0	0	0	0	0

（写真は緑丘小學校）

別表2

昭和33年度財政再建計画の実施狀況

昭和33年9月30日現在　（単位千円）

オ入	計画額 オ入額 (A)	計画額 うち一般財源	現計予算額 オ入額 (B)	現計予算額 うち一般財源	收入済額
市税	127.354	123.553	123.780	119.978	42.832
地方交付税	69.971	69.971	72.121	72.121	51.937
地方譲與税	150	150	150	150	0
財産收入	1.719	1.719	4.819	4.819	626
使用料手数料	17.622	0	17.819	0	7.931
國庫支出金	76.694	0	73.657	0	20.732
道支出金	4.196	0	5.557	0	566
寄附金	0	0	130	0	0
繰入金	7.500	0	7.500	0	0
雑收入	33.134	4.138	36.443	5.279	12.678
地方債	23.780	0	25.380	0	8.080
オ入合計	362.120	199.531	367.356	202.347	145.463

オ出	計画額 オ出額 (C)	計画額 うち一般財源充当額	現計予算額 オ出額 (D)	現計予算額 うち一般財源充当額	支出済額
消費的経費	189.295	118.201	190.465	120.484	87.210
(1)人件費	81.355	79.629	80.382	78.629	38.417
(2)物件費	45.064	20.738	48.576	24.905	23.836
(3)その他経費	62.876	17.834	61.512	16.950	24.963
投資的経費	127.755	47.022	133.051	48.746	63.984
(1)普通建設事業費	55.582	23.704	61.705	26.480	25.387
(2)災害復旧事業費	41.963	11.559	41.566	9.477	24.341
(3)失業対策事業費	29.220	11.664	29.780	12.789	13.556
公債費	48.833	45.660	47.682	44.460	24.586
(1)財政再建債元利償還金	21.144	17.921	21.144	17.921	10.572
(2)その他	27.739	27.739	26.538	26.539	14.008
繰出金	8.748	1.248	8.758	1.258	8.165
前年度繰上充用金	0	0	0	0	0
オ出合計	374.721	212.132	379.957	214.948	183.935
オ入オ出差引額	△12.601	△12.601	△12.601	△12.601	△38.472
支拂繰延額	0	0	0	0	—
事業繰延額	0	0	0	0	—

1959　謹賀新年　昭和34年

興北建設株式會社
社長　原田栄一
専務　山岸興作
丁一四一一

第一生命留萌支部
支部長　廣瀬生
専務部長　林義一
成田施設
北小路政治
田島隆二
サンタ
九六

留萌地方石油業協同組合
留萌營業所
留萌市幸町二丁目

電氣工事請負
北電指定工事所
北光電氣工業株式會社
取締役社長　福田宇之助

尺貫法はすでに過去のものとなりました

今日から **メートル法完全實施**

みんな早くなれましょう

成人者の皆さん おめでとう

＝一月十五日は成人の日＝

皆さん希望にみちた成人の日を迎えられておめでとう。この日は「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」ための祝日であります。

皆さんは幼年期を戦争の過中で過し、少年期は敗戦後の混乱の中で過して来ましたが、玆に立派に成人され、高い誇りと責務の重大さを認識されていることと思います。皆さんはもはや独立した自人であります。自分の言動には十分責任を期し、また自分の尊重は他人を尊重することになりますので、勝手な我ままは戒めなければなりません。

それから皆さんには選挙権という重大な權利が与えられます。選挙權の行使によって、主權者として政治に参与出来るのであります。選挙權は国民主權を基礎とする我國では、國民の持つ最も基本的な権利で、政治をよくしてわれ〳〵の社会を住みよい幸福なものにすることも、反対の方向にこれを導くことも、一にこの選挙權の行使のいかんにかかっています。成人になったことによって与えられる重要な法律上の變化はこの選挙權の取得だといえるでしょう。

市ではこの日を記念して一月十五日に公民館で成人式を挙行いたします。本年四月二日から昭和十四年四月一日までに出生した者ですが、まだ案内狀をもらっていない方は市教育委員会（＃四二一番）え御連絡下さる様御願いいたします。

一月十五日は成人の日

新入学兒童についてのお知らせ

教育委員会ではことし小學校と新しく入学される兒童の調査をしています。新入學兒童のいる家でまだ住民登録をしていない家庭や、學校から調査用紙の來ない方は至急市教育委員会へお申出下さい。

本年度の新入學對象者は昭和二十七年四月二日から昭和二十八年四月一日までに生れた方です。

なお、入学日時などについては二月中に各保護者あておしらせいたします。

課長にきく

―栄井経済課長との対話―

経済課は今年は大いにはりきるとしですね。

答　「新しい年を迎えました」今年もよろしく……おたがいの私の課の今年の仕事ですが、大いにはりきりたいと思っております。興られた基本方針と活動費の範圍内で……釘をうちましたね。ところで今年の重点事項は？

問　私の方ではこれから「という新しい仕事をかかえています。これは？

答　新しい村づくり――畜産山漁村建設計画の仕事で去年度一気に特別助成地域の指定をうけるため、正月早々基本計画をたてるようせがしい仕事がはじまります。

問　なるほど。来年度につづくわけですね、この仕事……

答　そうです。来年度の私の課の重要な仕事の一つとなるでしょう。

問　その他に来年度の計画は？

答　ここで公式の表明はできませんが、経済課の考えとして了解ねがうこととして、漁業、経済上で痛切に考えていることは何かをうかん、という計画をしたあとの評價つまり経済の尺度を持つということ、財政課長もふれていた市民所得の経済學的把握、これはどうしても一度やらなければならない。

問　その意義は？

答　今、わかっているのは租税負担だけです。それも一次漁業と二次漁業のぶんだけ。昭和三十二年度の一次二次漁業の出生産額の二次二次漁業の出生産額二億二千万円人口三万九千で割ると六万七千円になる。これを十万円まで上昇させる漁業政策をたてなければならない、という目標をとなえる人もあります。

しかしこれは市民の総所得はわからない。いわゆる生産、分配、支出の三面からの市民所得の把握がたければ経済の仕事はたたにくいのです。

やや経済ばかりでなく、市勢の伸長民度にも関じことがいえるのではないか。

市民所得がいくら殖えたいくら殖やす、算出すべきかを計数で設定、算出するということを根本方法として考えるべきでしょう。一應私は留萌市民の経所得は五億をめざして二十億前後、とらむ？　これもヤブにらみで立証資料を持っていないのです。

問　わかりましたが、他に経済面策上の基本的考え方について……

答　私どもの來年度の仕事の計画上の基本的考え方は海面の生産力を回復しなければならない。その為には何を強つてもろうかという前に、日本海の海流、対馬暖流の北上態勢がどうなっているか、ということ、その海洋学的調査、これをやらなければならない。これがわかれば獲るべき氷旅もわかります。具体的な面で期待したいのはマルイワシの大量出現ですが、これが確実であればエンジンに立てる可能性があります。

漁業者の活路はそれ水産加工水産と設低生活費にそなえて骨面に農業手段をもつという事。それと、海面生産力の当面の減退は陸面でカバーしていかなければならない。

問　そのためには？

答　そのためには未こんを徹底的に農地化すること、農業の立体経営一有畜体制の確立ですね。このため新開拓制度にもとづいた市町村地域の指定を申請中ですが、新農村建設のためにも重要な内容をなすものです。また淡水面も見のがしてはなりません。海面は自己把握できないが淡水面なら、それが完全にできる。優るべきものを計画指導できるのが強みです。マスの養殖を奨すすめしてのもこれに拠つてです。

問　例のニジマスですね。

答　ほんとうに有望です。

問　有望ですか。

答　有望です。輸出につながりますからいくら生産されても販路に困らない。それに成長が早く一年では水を求めるのに制約をうけますが、近所には輸出報合をつくってもいいほど有望な町がありますが。きれいな水をただ海に流しこんでいるのはもったいないことです。

問　工業も重大と思いますが……

答　むろんです。大きい工業には大きい條件が必要。立地條件は人為的に調整されなければなりませんさわぐだけでは大企業は出来ません。科学資料をとのえ人的物的條件を整備することが受入体制の根本ですね。

問　もっと具体的にいえませんか。用地とか工業用水をどうするとか……

答　私の仮の方法論ですが、安瀬を木材か石炭に設定するとしますか、そうしたときこの二つの森の開発可能な工業の規模をいくつも設計してみる。そしてそれに適合した立地條件の調整計画をたてる。企業の話が出てから土地だ水だでは間に合わない。それと、今、政府が立案しているいわゆる産業配置法――これはどうしても制定させなければならない。そしてあ弱條件地域を引上げる方策を考えてもらいたい。と思います。また大きな企業はただ待つということでなく、市内既存企業体を母体としてこれに地元資本力を集中させ、これを擴大させていくことが一番のぞましいことです。

問　そこで中小企業の振興ということになりますが……

答　今までただ「中小企業」と考えてきた。しかし「中小企業」とは何ぞや、ということになると、あわからない。これはどうしても種別分類をしなければならない。鉄工業、家具製造業といったんでいにです。そして分野毎の問題点を把握し、それぞれの施策を考える。基本的に中小企業はその地域の基本産業の盛衰に結びつけられているもので、例えば旭川市の中小企業は上川農村の豊凶の支配をてきめんに受けるのです。

本市では官公需の発註とサラリーマンの購買力が大きな力になっている。また隣接町村の發展は本市の中小企業の發展をもたらすのです。

中小企業といえば金融とそれだけ考えるのは單純すぎますね。

――では今日はこの辺で。どうもありがとう。

★　★

毎度有難う御座居ます
留萌市　たからや呉服店

賀正
北海道暖房炭株式会社留萌支店
中部石炭販売株式会社留萌支店
留萌石炭販売株式会社
瀧川菱雄石炭販売K留萌支店
瀧川第一石炭販売K留萌支店
旭川石炭株式会社留萌支店
三鉱石炭販売株式会社留萌支店
留萌友会

1959　謹賀新年　昭和34年

原田木材株式会社
取締役社長　原田栄一
丁代表　七二〇

空知木材産業株式會社
取締役社長　坂田正一
専務取締役　室田輝成
丁三五〇・七八一

北都モータース株式會社
北都建設工業株式會社
取締役社長　春木清作
専務取締役　阿部富久
丁一二二・一二二

鐵ケ淵ディーゼルサービス工場
鋼船沖修理
大型ディーゼルエンジン修理
重車輌整備
岡田鉄工所
岡田安也
丁二四〇・五一〇
夜間　二八三

留萌海運株式會社
取締役社長　久野岩治
常務取締役　佐藤政信
丁代表　一五〇

旭川石炭株式會社留萌支店
支店長　阿部清一
丁代表　三五七

北日本炭礦株式会社
北陽炭礦株式会社　特約店
菱和商事株式會社
取締役社長　大室重一
取締役　加登甚榮
取締役　矢野慶治
丁三九九

有限会社　八幡鉄工製作所
代表取締役　八幡要太郎
丁六八八